

のが四三二件で、兩者が全體の九三%を占めてゐるのである。而してその中賃銀増額要求の一五二件を除けば、全てが資本階級の暴虐な攻勢がその原因であることを知るのである。而して此等の争議は、その規模が極めて小さく、一件平均参加人員は僅かに五一人餘(昨年は六三人、一昨年は八三人)に過ぎない。その他本年上半期の争議に於て特に著るしく從來と異なる點は、滿洲上海事件による兵役應召者に對する手當要求、就業保證要求が各争議の要求中に示されたこと、産業界にしては映畫争議が著るしく増加したこと等である。七上半期争議の業種別分布状態は次の如し。

染織工業	一六七	礦業	三一
雜工業	一三八	飲食業	二一
金屬機械	一三二	瓦新工業	四
化學	一一一	通信業	二
運輸業	一〇四	その他	一六七
土木建築	六七		

(八) 全國勞働の争議

右にのべた如き我國の勞働争議の一般的情勢は、我が同盟の一年間の争議に於ても明瞭に反映されてゐる。昨年十月より本年八月末までの十ヶ月間に取扱へる同盟の争議件数は二九一件(北海道、九州、高知、廣島の一部等未報告の分は統計に入らず)であり、昨年度大會に於ける報告七二二件(期間は十六ヶ月)に比して期間に於て著るしく短いことを考慮し

でも減少してゐることは明白である。その原因は、前記の一般社會狀勢の反映であることは勿論であるが、一面又、我が同盟の過去一ヶ年の活動が主として内部的な統制問題に終したため外に向つて充分の力を發揮し得なかつたこともその原因である。然し乍ら、平均二・五日の繰越日數に達する此等の争議を、よく徹底的に戦ひ抜きたることは別表によつても明瞭である。

即ちこれを勝敗の結果について見れば、勝二〇〇件、妥協六〇件、敗二八件(續續中三件)であつて、中小工場を相手として、休業賃銀値下賃銀不拂首切り等の困難な争議をよく効果的に戦ひ來つたものである。

尙ほ、本年度を通じて、官憲の彈壓は依然として狂暴であり、加ふるに反動團體(生産黨その他暴力團)の横行は著るしく、幾多の争議は彈壓と暴力的威脅をはねのけて果敢に闘はれた。特に記録すべきは、昨年末より本年初頭に至る多木肥料(播州化學)争議に於ける官憲並に在郷軍人の暴壓と小作争議に端を發して栃木縣に惹起せる阿久津村事件であらう。

(九) 全國勞働關係争議の地方別分布

地方別	東京	大阪	兵庫	中国	中部	栃木	和歌山	計
件數	九六	三六	一八	二	一	一	一	一四九
人員	四、三三三	一、六二	六三三	三三	三〇	二二〇	二二〇	六、四三三

組合名	争議件數	争議人員數	争議日數	争議日數	争議日數	争議日數	争議日數	争議日數	争議日數
日本労働	六	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
日本合同	一	一	一	一	一	一	一	一	一
日本運輸	一	一	一	一	一	一	一	一	一
關東車技工	一	一	一	一	一	一	一	一	一
東京聯合	一	一	一	一	一	一	一	一	一
全國映畫	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
關東食料	一	一	一	一	一	一	一	一	一
關東木産	一	一	一	一	一	一	一	一	一
關東新聞	一	一	一	一	一	一	一	一	一
關東金屬	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大阪金屬	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大阪化學	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大阪運輸	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大阪電氣	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大阪電氣	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大阪電氣	一	一	一	一	一	一	一	一	一
播州化學	一	一	一	一	一	一	一	一	一
阪神合同	一	一	一	一	一	一	一	一	一
阪神金屬	一	一	一	一	一	一	一	一	一
福山勞働	一	一	一	一	一	一	一	一	一
中部映畫	一	一	一	一	一	一	一	一	一
和歌山一般	一	一	一	一	一	一	一	一	一
栃木聯合	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二